

研究課題名	「肝血管腫の外科治療に関する全国調査研究」 ー日本肝胆膵外科学会プロジェクト研究 肝 05ー
研究期間	診療録の検索期間として、 西暦 1998 年 1 月 1 日 ～ 西暦 2012 年 12 月 31 日 15 年間
研究の目的と意義	肝血管腫は良性疾患であり、経過観察されることが多いが、腹部圧迫感や凝固障害(Kasabach-Merrit 症候群)を呈する症状を有する症例では外科切除が行われます。原発性肝腫瘍の中では最も頻度の高い良性腫瘍であるにもかかわらず、どのような血管腫が切除適応となるリスクを有しているかについては、現在はほとんど不明です。本邦における肝血管腫の切除例を多施設共同で集積し、切除に至った血管腫の画像上の特徴や一部の病理組織学的因子の関係を検討し、本邦における血管腫の外科治療の短期および長期成績を明らかにするとともに、どのような血管腫に手術適応があるのか、破裂例や凝固機能障害例はどのような画像的あるいは病理学的背景を持つのかを明らかにすることにより、収集されたデータについて解析・公表することによって、肝血管腫患者の医療・福祉に貢献できると考えられます。
研究方法	過去 15 年間（西暦 1998 年 1 月 1 日から西暦 2012 年 12 月 31 日まで）に治療を受けられた約 480 名の患者さん（当院は 14 名）の診療録の中から必要なデータだけを用い、統計学的な解析を行います。 また、データは匿名化されるので、プライバシーの侵害は起こりません。患者さんの個人を尊重し、個人情報に厳重に保護し、取り扱いには十分留意し、「疫学研究に関する倫理指針」を遵守して実施しております。
個人情報の保護、 研究参加の拒否について	利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。 また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。
結果の公表	この研究の結果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。
問合せ先	【研究責任者】 京都第二赤十字病院 外科 副部長 藤 信明 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171 (代) FAX : 075-256-3451 (代)